地域に開き、地域と歩む園

前川　良太

先日 25 日は、開園 14 年目で初めて、つばさが丘東地区の夏祭りに園として参加させていただきました。つばさ OB 保護者の自治会長さんと「何か地域に向かって一緒にできることはないか」と話していたところ、夏祭りへの参加を提案いただき、二つ返事で決めました。これまで西地区のお祭りには参加していたこともありましたが、東は今回が初めてでした。

自治会とも打ち合わせを重ねながら、園では「ボール投げ」と「スーパーボールすくい」の子どもコーナーを担当させてもらうことになりました。

当日は、たくさんの園児や保護者の人たちが「園で参加してるの知らんかったわ。ありがとう」と声をかけて遊びに来てくれました。そして何よりうれしかったのは、開園当時まだ小さかった子どもたちが高校生になって、懐かしい顔を見せてくれたり、「大変そうやから手伝うわ～」と一緒にコーナーを切り盛りしてくれたりしたことです。さらに、役員や遊びに来てくれる人たちの半分近くが知った顔だったことも、うれしい驚きでした。卒園児や卒園児に連れられてよく遊びに来る近所の子、OB 保護者、アトムの OB、現役保護者、ひだまりや文庫などを通じて園へ来てくれている家庭…ここで、こんなにもたくさんの人と出会ってきたんだなあ。私たち自身も、地域の仲間入りをしていることを実感しました。

つばさ共同保育園は、東日本大震災の翌年に開園しました。震災の際に改めて、地域の絆の大切さ、誰も置き去りにしない地域の必要性を日本中の人たちが痛感しました。だからこそ、新興住宅地であるつばさが丘で、私たちが地域づくりの拠点になることを目指してスタートを切ったのです。私たちの仕事は、単にここに通う子どもたちの保育だけではありません。「保育も大変なのに、いろんな行事に出すぎてない？」と心配してくださる保護者もいますが、「地域を育む」ことこそ、私たちの仕事なのです。

とはいえ、目の前の保育に精一杯になると、地域に向かう余裕なんてない。そんな職員の声も時々聞こえてきます。でも、保育って本来、地域の中で営まれているものだと思うのです。子どもが育つということは、家庭や園だけでなく、地域の人や風景の中で育まれていくということです。つまり保育と地域はどこかでつながっていて、切り離して考えることなんて本当はできないのです。

私たちの地道な日々が、ここで関わった人たちが、巡り巡って地域をつくっているということを、今回改めて目の当たりにしました。その循環の一つひとつが、保育園を通じて地域の土壌を耕しているのではないでしょうか。卒園した子どもが今度は地域のお祭りに参加し、かつて送り迎えしていた保護者が今度は役員や地域の一員として頑張ってくれる。そんな「行き来」が生まれるからこそ、地域は誰かに「してもらう場所」ではなく、「ともにつくり、支え合う場所」になるのだと思います。

今年の夏祭りは、そんな“つながりの風景”が一層あたたかく感じられる時間でした。地域に開かれ、地域とともに歩む園でありたい。人がここで育つということが、そのまま地域の豊かさにつながるような、そんな保育園であり続けたいと、あらためて思っています。